

# 平成12年度事業計画

平成12年4月1日より平成13年3月31日まで

## 事業の概要

今年度の我が国の経済は、累次に亘る政府の景気対策と民間部門の立ち直り基調を背景に次第に明るさを取り戻し、年度後半からは緩やかな上昇軌道に乗り、通年度では1%強の経済成長率が実現すると期待されている。

このような状況の下で、ニューガラスフォーラムは昨年度、産業競争力の強化を目指した産業分野別技術戦略策定という国の大方針を受け、ガラス産業全体の技術戦略策定作業をガラス業界を集約する形で担当し、「ガラス産業技術戦略2025年」という報告書にまとめ上げた。今後はこれをベースに、ガラス産業の発展のために実施すべき技術研究開発プロジェクトを積極的に提案して行きたい。

一方、現在ガラス業界団体は、ガラス製品別に分かれているため、各ガラス業界の意志疎通が必ずしも十分とは言えない状況にあることから、これらを一つに集約し纏まりのある組織に改変しガラス産業の一層の発展を図るためガラス産業協議会が発足した。今後はこのような新たな局面を踏まえ、ニューガラスフォーラムとしてはガラスメーカーとユーザーを会員に併せ持つというその特質を活かしながら、今後の進むべき方向、役割等について、ガラス産業各界関係者と協議して参りたい。

以下、定款の箇条に従って、12年度の事業計画を述べる。

## 1. ニューガラスに関する産業及び技術開発動向等の情報の収集及び提供

(定款 第4条第1項第1号関係)

### (1) 機関誌「NEW GLASS」の発行

ニューガラスに関する国内外の新製品・新技術の紹介、内外のニュース、関連産業の動向、技術解説等を内容とした機関誌「NEW GLASS」を年に4回発行し、会員等に提供する。

また、ニューガラスフォーラム・ホームページから機関誌「NEW GLASS」のバックナンバーの目次検索はもとより、内容についてもPDF(電子出版物)化し、過去の掲載記事を全ていつでも参照出来るようにする。これからはますます購読者に役に立つように、機関誌を通じて情報の提供を行う。

### (2) ニューガラスフォーラム・ホームページの活用

「シーズとニーズの出会いの場を提供する」というフォーラムの基本的な使命を達成するための具体的手段として、ニューガラスフォーラム・ホームページを活用する。産・官・学、メーカーとユーザー会員との間のコンタクトや海外とのコミュニケーションがより迅速、容易、密接にできるようにするために、ガラスに関する製造会社、新製品、生産技術、科学などに関する新しい情報を会員等に提供する。

### (3) ニューガラス産業の普及啓発

会員の協力を得て、ニューガラスの展示を「現代ガラスの博物館」において引き続いて行い、ニューガラスの普及啓発を図る。

2. ニューガラスの産業及び技術開発等に関する調査研究  
(定款 第4条第1項第2号関係)

ニューガラスの成形技術の現状と課題に関する調査研究

ニューガラスは新しいニーズに対応して独自の製造技術を発展させており、今後もその改善と合理化は大きな課題となっている。このシリーズ最後となる3年目の本年度は、光ファイバ、チューブなどの延伸成形及およびガラス繊維に的を絞り、メーカー各社による調査研究に加え、他産業技術者の参画も得て、改善点を多面的に捉え、技術の現状と将来の局面を明らかにする。

(日本機械工業連合会から受託を予定)

3. ニューガラスに関する講習会、講演会及び研究会等の開催  
(定款 第4条第1項第3号関係)

(1) 研究会の開催

ガラス産業発展のため、産学官交流の場あるいは研究者・技術者育成の場として、昨年度スタートした4研究会を引き続き開催する。但し、セミナーとの峻別を明確化するため本年度は試行的に、建築分野研究会を除き、参加登録資格を会員企業と官学に制限し、かつ年間参加登録者以外への事前案内は行わないクローズな運営を行う。

① 電子・光分野研究会

平面ディスプレイ、磁気記録、光記録、光通信などの情報処理通信市場へのニューガラスとその関連製品の新たな展開を探るための情報収集の場として、この研究会を設ける。システムメーカーの講演を中心に、関連するニューガラスの高付加価値化技術、評価技術などの話題を盛り込み、ニューガラス製品の開発に携わる研究者・技術者にとって有益な情報が得られる場となるよう運営する。本年度は4回の講演会を開催する。

② 建築分野研究会

ガラス及びその施工技術の進歩は、建築空間の機能やデザインの新たな可能性を拓いてきた。また、優れた設計者によって、ガラスを用いた新たな建築空間が創出されてきている。本年度の研究会は、設計者の立場から、自らの実践に基づき、ガラスを用いた新たな建築空間の創出における苦心、ガラス及び施工技術に対する期待などを語っていただくことを中心に、これに基づくディスカッションも交え、関係する設計者・技術者・研究者に役立つものとしたい。本年度の開催回数は1回(秋)とする。

③ ガラス科学技術研究会

電子・光分野研究会、建築分野研究会、環境問題研究会で取り上げるデバイス、モジュール、システムの実現に必要なガラス材料に関する科学と技術に焦点を当て、関連学会の新規研究成果や現場技術の進展に関する話題提供に基づいて議論をおこなう。産学官の第一線で研究開発に携わる方を話題提供者とする他、本研究会の参加会員からも適時、話題を提供していただき、会員間の親睦を深める。特に当フォーラム主催のニューガラス大学院を修了した若手ならびに現役学部生や大学院生が実践のための技術を議論できる場ともしたい。なお、本年度は4回開催する。

#### ④ 環境問題研究会

環境への負荷の少ないガラス製造技術・ガラス組成の開発、あるいはガラス廃棄物の回収・再利用などの問題に係わりを持つ研究者・技術者が集い、問題解決の糸口を探る場として、講演会・見学会を4回開催する。講演会としては、減圧脱法及び脱鉛ガラス等を予定している。見学会としては、ガラス製造における排ガス・廃水問題と解決策及びガラス廃棄物の回収・再利用の現状と今後を予定している。

#### (2) セミナーの開催

ニューガラスの研究者・技術者等を対象にニューガラスの最新技術動向などを紹介するセミナーを開催する。12年度は第53回から第56回までの4回を予定する。

#### (3) 講座の開催

##### 1) ニューガラス大学院

企業の若手研究者・技術者および大学院学生を対象に、ガラス材料の基礎技術および応用技術について、大学教授・企業の幹部研究者ら各分野の一流講師を招き、本年度も4日間16テーマの講義を実施する。

##### 2) ニューガラス技術講座

今年度も昨年同様に、研究者、事業部技術者および調査、企画、営業などを担当する方々にも興味ある講座にするため、ニューガラスに関するシステムや材料、技術を取り上げて紹介する。

#### (4) 若手懇談会の開催

若手懇談会は、広く様々な事業分野から集合している当フォーラムの会員会社及び当フォーラムに関連の深い官学会の若手により、今後のニューガラスに関する新研究開発課題、新用途に関し、自由な雰囲気の中で意見交換の場を形成する。当フォーラムのホームページ「若手懇談会」のコーナーを活用して、より広く多くの若手研究者に新しい情報を提供する。

#### (5) 見学会の開催

会員のニューガラスに関する知識の向上や異業種間の交流を図るため、会員企業等を訪問する見学会を年に2回開催する。

#### 4. ニューガラスに関する国際交流及び協力

(定款 第4条第1項第4号関係)

##### 国際ガラスデータベース

2年前に開発したINTERGLAD (バージョン4) の国内外普及のため、PR活動を積極的に進める、新データを追加するとともに、補正予算による知的基盤整備事業の中でINTERGLADの使い勝手についての改善を進める。

5. ニューガラスに関する標準化・規格化の調査研究  
(定款 第4条第1項第5号関係)

ニューガラス高温物性の評価方法の標準化については、研究開発が伴うので以下の「ニューガラスに係る研究開発」の項目欄で事説明する。

6. ニューガラスに関する研究開発  
(定款 第4条第1項第6号関係)

(1) ニューガラス高温物性の評価方法の標準化

3年計画の3年目の研究に入る。今年是最終年に当たり、測定対象ガラス組成についてもアルミノシリケートガラス等高温系のガラスに進む一方、海外の研究者との交流について、昨年度(99年)に引続きアメリカ・ヨーロッパとの連携を強め、データ交流及び国際標準化の為に素案の策定を行う。

(2) 知的基盤整備

99年度2次補正予算により昨年度から始めた本プロジェクトを引き続き受託することになった。これは2000年度にまで繰り延べられる。昨年度に行った新しい用途開発が行われる可能性のあるガラス組成域について、新たに組成系列を作り、ガラスを作製して物性を測定し、新たなデータを集積してINTERGLADの付加価値を高めるプロジェクト及びそれに加えて、INTERGLADの使い勝手を改善するソフト及びシステム改善の総合的プロジェクトである。事業の推進のために、引き続き知的基盤整備推進委員会(京大名誉教授曾我先生に委員長を委嘱する)及びその下に整備委員会を設ける。また、新たにDB活用委員会を組織して強化されたINTERGLADの活用策を検討する。

(3) その他の新規プロジェクトの準備

平成13年度及び平成14年度からの新規プロジェクト立ち上げの準備を行う。プロジェクト候補としては、昨年度に不採択となったコンジュゲートマテリアル関係のテーマ、革新的ガラス溶解技術(高精度槽窯シミュレータ)関連テーマ、ポスト・ニューガラス高温物性の評価方法の標準化プロジェクトなどがある。

7. ニューガラスに関連のある団体、学会及び研究機関との協力  
(定款 第4条第1項第7号関係)

(社)日本セラミックス協会、新素材関連団体連絡会その他内外のニューガラスに関連のある団体、学会及び研究機関の事業に協力し相互の連携を図る。

# 平成12年度収支予算総括表

(平成12年4月1日～平成13年3月31日)

(収入の部)

(単位:千円)

大科目	予算額 (A)	前年度予算 (B)	増減 (A)-(B)	備考
一般会計事業収入	71,822	74,160	△ 2,338	
会費収入	57,700	62,000	△ 4,300	
事業収入	10,802	11,820	△ 1,018	
退職給与引当金預金取崩収入	3,000	0	3,000	
雑収入	320	340	△ 20	
データベース事業収入	6,700	8,720	△ 2,020	
データベース販売高	6,700	8,720	△ 2,020	
先導研究事業収入	0	1,600	△ 1,600	
NEDOからの受託	0	0	0	
先導研究参加費	0	1,600	△ 1,600	
高温物性事業収入	24,000	40,000	△ 16,000	
日本規格協会からの受託	22,000	35,000	△ 13,000	
高温物性参加費	2,000	5,000	△ 3,000	
知的基盤整備事業	312,359	150,000	162,359	
通産省工業技術院からの受託	312,359	150,000	162,359	
当期収入合計 (d)	414,881	274,480	140,401	前年度予算の前期
前期繰越収支差額	40,030	37,209	2,821	繰越収支差額に先
収入合計 (e)	454,911	311,689	143,222	導研究661を含む

(支出の部)

(単位:千円)

大科目	予 額 (A)	前年度予算 (B)	増 減 (A)-(B)	備考
一般会計事業支出	67,803	70,561	△ 2,758	
事業費	16,082	16,840	△ 758	
管理費	48,021	52,721	△ 4,700	
積立金	1,000	1,000	0	
消費税	2,700	0	2,700	
データベース事業支出	6,700	8,140	△ 1,440	
事業費	4,700	6,090	△ 1,390	
管理費	2,000	2,050	△ 50	
先導研究事業支出	0	2,261	△ 2,261	
雑費	0	2,261	△ 2,261	
高温物性事業支出	24,000	41,262	△ 17,262	
プラント・機械装置等開発費	0	11,713	△ 11,713	
労務費	5,771	6,130	△ 359	
消耗品費	15,181	15,490	△ 309	
租税公課・他経費	1,048	1,667	△ 619	
雑費	2,000	3,562	△ 1,562	
積立金	0	2,700	△ 2,700	
知的基盤整備事業	312,359	150,000	162,359	
委員会費	1,657	2,843	△ 1,186	
試験経費	268,407	128,538	139,869	
調査費	1,691	3,474	△ 1,783	
報告書作成費	2,565	1,200	1,365	
その他特別費	9,000	0	9,000	
事務局費	14,165	6,802	7,363	
消費税	14,874	7,143	7,731	
当期支出合計 (f)	410,862	272,224	138,638	
当期収支差額 (d)-(f)	4,019	2,256	1,763	
次期繰越収支差額 (e)-(f)	44,049	39,465	4,584	